

2012年度 茨城県平和委員会大会特集

草の根の平和運動を、多くの人たちと連帯して地域から進めよう！



多くの地域実行委員会を結成して成功した 「脱原発4.1県民大集会」

○脱原発の取り組みで、地域の学習会を何度も開催した。「さよなら原発4.1大集会 in いばらき」では、実行委員会を結成し、何度も協議し、大型バス3台160人以上の参加があった。20数万円の賛同金も集まった。今後も取り組みを進める。(土浦)

○地域で放射線量を継続的に測定した。「4.1集会」では、地域の各団体に呼びかけ実行委員会を結成した。地域の人たちに広く呼びかけ60人で参加した。(下館)

○41名の参加で「廃炉を求める石岡地域の会」を結成した。議会に廃炉の請願を提出したが継続審議となった。10日間で1300名の署名を集め、みんなで議長に申し入れた。各会派の責任者とも会った。結果「東海第二原発廃炉」の請願が採択された。(石岡)

○原発の稼働で「安全」だけを言うのは問題だ。知事は県民、自治体は市民の安全を守る義務がある。防災の原則は「事故は起こりうることを前提する」視点で、安全性の問題をはっきりした要求を出していく運動を工夫してもいいのではないか。(内原・友部)

○「4.1集会」はネットワークで広く取り組んだ。若い人はフェスブックなどで横につながっていると思う。昼の400人がつながっていると、夜には11,000人にもなっている。平和委員会としても若い人に発信してほしい。(花だいこん)



【大会代議員の主な発言】

○「東海原発再稼働反対」は緊急課題として当然取り組む。また、長期的な全国課題として安保条約、沖縄の米軍基地撤去のたたかいを重視すべきだ。(水戸西)

○地域のいくつかの九条の会へ呼びかけ、新聞折込などを含め、脱原発のチラシを7万枚のチラシを配布した。地域の雰囲気が変わってきたのを感じた。140名から20万円のカンパが寄せられた。情勢を確実につかんで、果敢に取り組んでよかった。(古河)

ともに進みましょう！

2012年度 茨城県平和委員会役員



【代表理事】

水野 秧一郎 (阿見) 植田 金雄 (石岡)
伊達 郷右衛門 (内原・友部)

【事務局長】

木村 泉 (鹿行)

【常任理事】

加藤 岑生 (東海)	人見 忠男 (ひたちなか)
川又 俊水 (那珂)	高見沢 澄 (水戸西)
中山 弘子 (花だいこん)	川井 光 (内原・友部)
飯村 一雄 (内原・友部)	柳岡 修二 (内原・友部)
池田 征一 (笠西)	風間 道夫 (鹿行)
小久保 荘一 (鹿行)	小沼 一彦 (潮来市職)
山口 由夫 (石岡)	稲田 明浩 (石岡)
梅沢 優 (百里)	近藤 輝男 (土浦)
又川 速雄 (つくば)	前田 清 (下館)
叶谷 正 (ゆうき)	金子 勉 (さかい)

【理事】

北 茨 城 : 穂積 建三・藤田 稜威雄
美和・緒川 : 堀江 仙三・山口 孝

日 立 : 岩間 雅美	大 田 : 福田 亘男
おおみや : 小野瀬 實	
東 海 : 川崎 勝男・大川 眞一	
ひたちなか : 大和田 喜市	みとみなみ : 岡野 勝
水 戸 西 : 小川 弘二・小瀬 信司・松原 日出夫	
	伊藤 昭子・田中 重博
花だいこん : 菊池 浅子	はばたき : 江尻 大祐
内原・友部 : 稲田 敏之・小林 和栄	
笠 西 : 田中 詔	鹿 行 : 関口 正司
潮来市職 : 小沼 正範	池 貝 : 小川 隆
石 岡 : 高栖 敬・内田 礼子	
百 里 : 栗又 衛	阿 見 : 中山 熙之
守 谷 : 齊藤 哲・丸町 芳夫	
つくばみらい : 小川 三也・芦田 洋治	
莖 崎 : 軽部 英司	りゅうがさき : 宮澤 利春
美 浦 : 長山 静雄	稲 敷 : 山口 清吉
ふじしろ : 根本 和彦・鈴木 清	
取 手 : 長谷山 世美子・花沢 楓	
下 館 : 小林 清	ゆうき : 前田 誠治
さかい : 染谷 卓勇	古 河 : 井上 忍
ご か : 青木 不二子	

【会計監査】 椎名 定 (東海) 羽鳥 茂 (水戸西)

「脱原発広告」に個人1200人余、130団体以上が賛同！！このちからを仲間づくりへ！！

○「数は力」仲間を増やそう。全国で「6月末の大会までに18,000名の仲間にしよう」とがんばっている。仲間は増やさないと増えない。力のある会員は持てる力を発揮してほしい。県平和委員会も1,100名を実現するためがんばっている。(阿見)



○かわら版を届けて一言話をする。大変だががんばって見ると人間関係が深まる。また家族にも勧誘して「家族平和委員会」を作ってほしい。(石岡)

20ヶ所を超える地域平和展 全県で10万枚以上配布した原発チラシ

大会では、延べ20人の代議員が発言し、提案された議案はすべて承認されました。また、

「定期大会として、オスプレイ配備反対決議を出して抗議の意思を示すべき」(水戸西)、「脱原発7. 16の10万人集会(東京代々木)は、平和委員会として積極的な参加を呼びかける」(那珂)、「各地域の平和展に使用できるパネルやDVD等の映像ソフトの一覧表を作成して地域に配布する」(太田)等の意見は、即実行することとしました。



議案採択後、役員(理事)が選出されました。休憩中に、第一回理事会が開催され、代表理事、常任理事を互選し、代表理事、事務局長を大会に推薦しました。

用意された大会決議を採択し、「オスプレイ配備反対」の決議は、事務局に一任されました。閉会挨拶は植田代表理事でした。

なお、日本平和委員会の佐藤代表理事には、大会終了まで参加して戴きました。

2012年6月17日

沖縄・米軍普天間基地のMVオスプレイ配備計画を撤回せよ！！

オスプレイは開発段階から墜落事故を繰り返しました。その後も事故が頻発し、4月にはモロッコで、6月にはフロリダで墜落事故を起こしています。

防衛省が6月26日に公表したアメリカからの情報では、これらの事故は、両方ともヘリモードから固定翼モードに切り替える途中で墜落したことを明らかにしています。

オスプレイは、エンジンが停止した際、風の力でプロペラが回転して墜落を避ける機能がありません。民間機ならアメリカ国内でも飛ぶことができない欠陥機です。二つの事故は構造的な欠陥による疑いが濃厚です。「機体に不具合はない」と強弁して配置を強行することは絶対に許せません。しかも普天間基地周辺は公共施設や民家が建ち並び「世界一危険基地」と言われています。その普天間基地に墜落事故を頻繁に起こしている欠陥機を配備するなどは、狂気のさたです。

米国防省の報道官は、70機のオスプレイを、岩国基地を経由して普天間基地に配備する計画強行の方針を強調しています。また、このオスプレイが、岩国基地やキャンパ富士で飛行訓練をすることや、米軍が勝手に設定した飛行ルートで夜間も含めた低空飛行を行なう計画も示しています。

飛行ルートは東北地方に2本、北信越、近畿・四国、九州、沖縄・奄美に各一本、合計6本あり、これに中国ルートも加わるともいいます。

構造的欠陥が明白で、なおかつ事故が絶えないオスプレイの配備そのものも論外ですが、民間上空を、しかも低空飛行訓練をするなど、断じて許されることではありません。この低空飛行訓練は、沖縄とともに本土の住民も危険にさらします。騒音と同時に墜落事故への恐怖ははかり知れません。

岩国市長は即時、オスプレイ配備反対の意思を表明しました。沖縄では、県知事や県議会をはじめ、41市町村長と議会の全てが、オスプレイ配備反対の決議をあげています。住民の安全を考えれば当然です。私たち平和委員会もオスプレイの配備は反対です。日本の人たちの平和と安全の生活を守るためにも、オスプレイの配備を撤回すべきです。

2012年 6月17日 2012年度 茨城県平和委員会定期大会

「9条の会ごか」からご案内

7月19日、北茨城へ日帰リバスツアー

日時：7月19日(木)

出発公民館前(7時) ウエルシア前・善照寺・さかい道の駅
【天心の六角堂、日本美術院前跡の石碑等、県立天心記念美術館、風船爆弾放流基地跡、大津港周辺被災状況、野口雨情記念館・生家】

参加費：4000円(バス代・昼食代・入館料込み)

連絡先：FAX.028-84-1659, 0280-84-0726 (大谷)
FAX.028-84-1156 (青木)

6/24美和・緒川平和の会総会を開きました



総会終了後、「青い山脈」「知床旅情」などを合唱。バーベキュー会場に移動して親睦を深めました。

平和かわら版No. 629 (7月5日・15日)

合併号) 別刷り

(2/2ページ)